

岩手県陸前高田市に初の総合型地域スポーツクラブが誕生

NPO 法人フォルダ 沿岸支援コーディネーター
佐藤 さくら

岩手県陸前高田市は岩手県の沿岸部に位置しています。昨年3月の東日本大震災では震度6弱の地震と大津波の影響で2,000名以上が犠牲となり、3,000戸以上の家屋や市庁舎、学校等の多くの公共施設も被害に遭いました。そのような未曾有の被害に遭ったにもかかわらず、すでに前を向いて歩き出している方々がいらっしゃいます。

「総合型りくぜんたかた」はそのような方々が中核となって設立にこぎつけた、陸前高田市初の総合型地域スポーツクラブです。今回は、岩手県の内陸部の北上市にあるNPO 法人フォルダが、沿岸部の「総合型りくぜんたかた」の設立のお手伝いをしている立場から、陸前高田市のスポーツ環境の現状や、スポーツ・運動にかかわる住民の声を中心にご紹介します。

「総合型りくぜんたかた」の誕生

「総合型りくぜんたかた」は、平成24年11月20日に設立総会を迎えたばかりの新しいクラブです。陸前高田市は震災から1年半以上が経過したとはいえ、未だたくさんの課題が残る地域であり、言うまでもなくクラブ設立にも様々な形で影響しています。「事業計画案の作成」ひとつ取っても、体育館やグラウンド、学校などの本来主な活動場所となる施設を津波で流失しているため、先を見越した計画が非常に困難であり、現時点の限られた環境の下で計画案を作成しなければなりません。また、今後幅広い活動を展開していくためにはスポーツ備品の購入が必要ですが、用具を収納する場所がないという現実があります。

プレ事業から見てきたこと

クラブの周知と事務局の教室の運営トレーニングを兼ねてプレ事業を何度か行ってきました。10月下旬に行われたペタンク交流会には、中学生を含む市民9名の参加をいただきました。ほとんどの参加者が初めてペタンクというスポーツに触れ、その親しみやすさと奥深さにすっかり魅了されたようでした。ペタンクは場所を選ばず屋内外で楽しめるスポーツです。今回も被災した学校の校庭を利用して活動したことにより、たとえ整備されたスポーツ施設が無くても、工夫してスポーツに取り組めるということを肌で感じる事ができました。

また、幼児対象のエクササイズ教室を市内の保育所で実施。第1回目の教室では、十分な周知ができなかったことと、スポーツクラブとしての認知度が全くなかったことを心配していましたが、市内各地からなんと約20名の参加者が集まりました。保護者からは「震災以降、子どもが走り回



ることが減ってしまったのがいつも心配だった」という声や、「ハイハイさせる場所もない」という声を直接聞くことができ、乳幼児対象のスポーツ教室のニーズがあることがわかりました。

アンケート調査結果から見えてきたこと

第2回目の幼児エクササイズ教室では保護者を対象としたアンケート調査を実施し、お子さん、ご自身の運動量について、そして陸前高田市のスポーツ環境について尋ねました。その結果、震災以前より運動量が減っている理由をみると、子どもにとっては「施設の流出」という回答が56%と半数を超え、大人では「機会の減少」をあげる人が50%と半数にのぼりました。「やる気の減少」を理由にあげた人が1割以上いたのが印象的です（文末・図1、2）。

また、スポーツ環境の満足度を尋ねると、「不満」が8割、「やや不満」が1割で、合わせて約9割の人が「不満」に思っていると回答しました（文末・図3）。その上で、望ましいスポーツ環境について尋ねたところ（複数回答）、多くの人が「気軽に楽しく」「家族みんなで」「仲間と一緒に」が上位に上がり、「文化活動も」楽しみたいという回答も半数にのぼっています（文末・図4）。

このアンケート調査は、回答者数が限られ年齢層や性別も偏っているので、一概に全体を反映した結果とは言えません。しかし、少なくとも陸前高田に暮らす人々が、現在のスポーツ環境になんらかの不満を持っており、改善を求めているという実感を持つことができました。



クラブが地域で果たす役割の多さを実感

前述したように、陸前高田市のスポーツ振興を取り巻く環境は決して良いものではありません。仮設住宅からの遠距離通学により十分に部活動に取り組むことができない児童や学生、自宅は津波の被害から免れたものの近所付き合いが希薄になり家の中に閉じこもりがちな高齢者層、限られた住スペースにより思う存分ハイハイができない乳児……。その上、スポーツ施設の不足などのハード面の課題もあり、課題をあげていると枚挙に暇がありません。

しかしながら、「総合型りくぜんたかた」の活動は、総合型クラブがいかなる環境下でも地域のために果たすことができる役割の多さを改めて実感させられます。スポーツはもちろん、文化活動や生涯学習を取り入れることで、幅広い住民のニーズを活動に反映させ、市民の拠り所として、また多くの人々の生活の一部として定着していくでしょう。

事務局の方々との会話の中で、印象に残っている言葉があります。「震災による苦境を乗り越え、子どもから大人までが自分の好きなスポーツや文化活動を通して、自分らしく元気な生活を送れる環境を創りたい。全てを元に戻すのではなく、より良い陸前高田市を創っていけたら」。そんな想いで立ち上がった「総合型りくぜんたかた」は、市民の心の復興の一助を担う存在なのだと思います。

図1 運動量減少の理由（子ども）

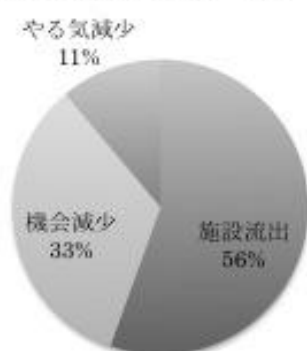


図2 運動量減少の理由（大人）

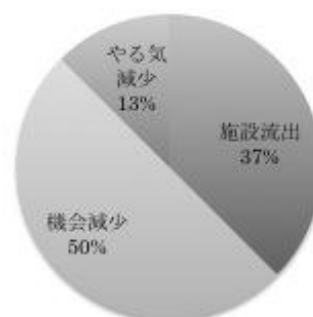


図3 陸前高田市におけるスポーツ環境満足度

(割)

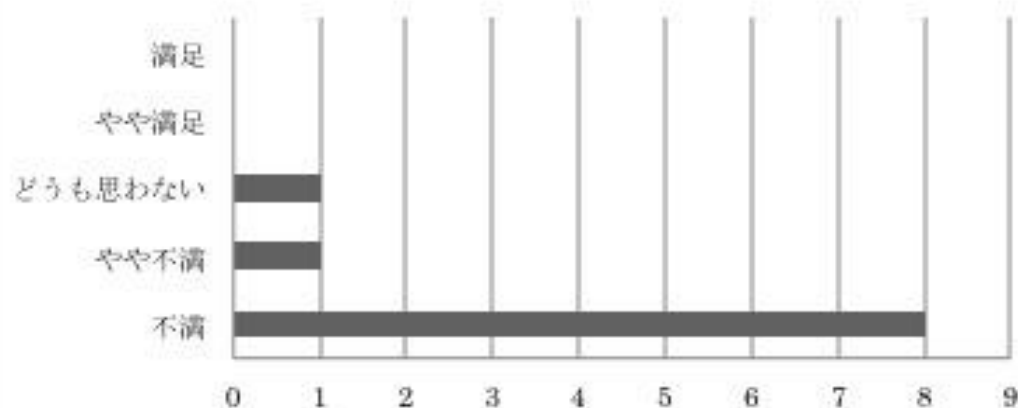


図4 望ましいスポーツ環境

(割)

